

心臓血管病予防、がん予防のためのアスピリンの使用を 米国のガイドラインが推奨

米国予防医学専門委員会（USPSTF）は、心臓血管病予防のためのアスピリンの使用に関する勧告を 2009 年に、大腸がん予防のためのアスピリンの使用に関する勧告を 2007 年に発表している。今回、心臓血管病予防のためのアスピリンの使用に関する 5 件の研究を加え、また、大腸がん予防についてはいくつかの追跡データの分析を加えてレビューを行い、ガイドラインを改訂した。

その結果、心臓血管病のリスクが高い 50～59 歳の人には、心臓血管病と大腸がんの予防のために、低用量アスピリンを毎日服用することが勧告された。ただし、これは消化管出血のリスクがなく、10 年以上の余命が見込まれていて、低用量アスピリンを 10 年以上飲み続ける意思がある場合に限り、限られるとしている。また、心臓血管リスクの高い 60～69 歳の人でも、アスピリンは有益ではあるが、便益は小さくなるため、医師と相談して決めることを進めている。50 歳未満および 70 歳以上では、エビデンスが不十分でリスクと便益が明らかにならなかった。

出典：Annals of Internal Medicine. Published online Apr 12, 2016;

doi: 10.7326/M16-0577